

## 「ぶんぶんひろば」における授業の実践 「子どものための音楽会」

### 1. ねらい

「子どものための音楽会」は2011年からスタートし、9年目を迎えた。この音楽会は広島文化学園大学学芸学部音楽学科2年次に開講している「演奏活動Ⅰ」（前期：選択科目）、「演奏活動Ⅱ」（後期：選択科目）の実践学習の一環として開催している音楽会で、ぶんぶんひろばの活動として定着している。2020年度はコロナ禍により前期科目の「演奏活動Ⅰ」の実施は自粛せざるを得なかったが、後期の「演奏活動Ⅱ」は、参加者を5組限定にし、コロナ対策を実施したうえで月に1回から2回、木曜日の11時30分から12時の30分間、子ども・子育て支援研究センターぶんぶんひろばにて開催した。

「演奏活動Ⅰ」「演奏活動Ⅱ」は、子どもを対象とした演奏会について、企画の立て方、プログラムの組み方、しゃべり方、立ち振る舞いを始め、子どもたちをひきつけるためのパフォーマンス力を磨くための科目である。さらに、子どもや保護者の演奏ニーズを把握し、そのニーズに応じた演奏会を開催できるようにすることを目標としている。音楽会を自粛した「演奏活動Ⅰ」では、学生同士での発表をおこなった。



写真1 コロナ対策として、フェイスシールドを着用

### 2. 活動の内容

「演奏活動Ⅰ」「演奏活動Ⅱ」の授業では、音楽会の企画を立てるところから始まり、選曲、ペープサートなどの準備を行い、演奏や演出の練習を重

ね、通しリハーサルを行ったうえで本番を実施している。また、演奏会後は保護者のアンケート集計およびDVD視聴による振り返り（反転学習）を必ず行い、報告書を作成し反省点をもとに次の音楽会を企画する。といった流れで実施している。

これまでは音楽会の約束事として、グループ毎に2・3曲の手遊び歌を用意すること、そして子ども達が簡易楽器などを使って音楽に参加する場面を作ることを条件としていたが、楽器の受け渡しなどの交流、ふれあい活動については禁止とし、透明のカーテンで演奏者と親子を遮るようにした。また、参加者を5組限定にし、これまでおこなっていた学生の見学を自粛することにより密を避ける対策を取った。

学生らは、子どもとの交流や、ふれあい活動がない中でどのようにしたら、子どもたちが飽きないかを工夫しながら、30分のプログラムを、童謡、唱歌、クラシック、アニメソングなどの演奏ほか、手遊び歌、音楽絵本や紙芝居、ペープサート、ダンスなどの企画を考えた。

その他に、ピアスなどの装飾品はつけない事など、子ども達にとって必要な安全面や衛生面への配慮などについても学んでいる。

### 3. 2020年度実績報告

2020年度の前期はコロナ禍により未実施。後期は6回の「子どものための音楽会」を予定していたが、最後の1月28日の音楽会は、広島県の新型コロナウイルスの感染拡大状況および方針によりオンライン授業となったため中止となり、結果5回の開催となった。

図1 2020年度「子どものための音楽会」実施概要

音楽学科学生による  
子どものための音楽会  
in 子ども・子育て支援研究センター

令和2年度  
後期

10月29日(木)
11月5日(木)
11月19日(木)
12月10日(木)
1月14日(木)
1月28日(木)

場所/広島文化学園大学 広島長束キャンパス内  
ぶんぶんひろば (広島市南区長束5-5-1)

時間/11:30-12:00 (11:15開場)

入場無料/要事前申込 (5組限定)

※駐車場の限りがございますので、ご了承ください。

新型コロナウイルス感染症防止対策として、大学内ではマスクを着用してください。また、入場時の検温、発熱等の確認にご協力をお願いします。検温の結果、発熱が認められる場合は入室できません。検温の結果、他の感染症(1m以上の距離を確保して行動してください)の疑いがある場合は、検温カウンターを通過できません。なお、検温によってお預りしのかかり添削が滞りかねませんので、ご理解、ご協力をお願いします。

出演は音楽学科2年生「演奏活動Ⅰ・Ⅱ」の履修学生です。  
お問い合わせは082-239-5171(広島文化学園大学)まで

※開催日は変更になる場合があります

写真2は、ペープサートを使っておはなし音楽

を実演している学生の様子である。ちょうどクリスマスの時期であったため、「くるみ割り人形」の物語を音楽付きで披露した。このように、子どもを対象にした音楽会は視覚的な支援が効果的であることから、キャラクターや季節に合わせたペープサートなどを用意することで、子どもたちにとって、視覚的にも楽しめる音楽会を目指し準備をおこなっている。



写真2 ペープサートで音楽表現する学生の様子

2020年度は、コロナ禍によりこれまで実施していた交流、ふれあい活動が実施できず、学生たちもいろいろと工夫や配慮をしながらの実践となった。また、透明のカーテンによって、用意したものが見えにくくなってしまったり、フェイスシールドにより演奏に支障が出てしまったりなど、これまでにない問題が発生したため、リハーサルでの準備を念入りにする必要性が感じられた。その中でも、参加して下さった親子が楽しそうに音楽を聴いている様子が学生たちの喜びとやりがいにつながった。



写真3 透明のカーテン越しに実演する学生たち

#### 4. 今後の課題と展望

2021年度も引き続き、コロナ禍での実施となると思われる。どのようにしたら安全かつ安心の音楽会となるか、学生たちとディスカッションをしながら検討していきたい。また、2020年度に使用した透明のカーテンは、視界が悪くなり、パフォーマンスや視覚支援の小物類、楽器等が見え辛いという意見もいただいたため、透明のカーテンに変わる新たな方法を考えていきたい。



写真4 絵本の読み聞かせを熱心に聴く子どもたち

このような状況下においても、保護者から「音楽会を実施してほしい」という要望をたくさんいただき、未就学児を対象にした音楽会の必要性を強く感じるとともに、今後も活動をさらに充実させていく必要があると改めて考える機会となった。

(文責：学芸学部音楽学科 高橋 千絵)